出牛正芳名誉教授が最終講義

「安全性確保と循環型社会を目指して」

8月末で学長の任期満了を迎え、教授職を定年退職となった出牛正芳名誉教授（現学校法人専修大学理事長）の最終講義が9月28日、生田キャンパスで行われ、約350人が参加して傾聴した＝写真。

出牛教授が最後の講義で取り上げたテーマは「安全性確保と循環型社会を目指して」。ネオ・コンシューマリズム（消費者主義と環境主義）の盛り上がりの中で、経営を取り巻く外部環境の安全性と自然環境にスポットを当てた。産業廃棄物を再資源化し再生品として流通させる循環型社会システム構築へ、その実現への現状、問題点、展望をパワーポイントを駆使して展開。環境変化に応じて企業が独自の立場から対応策を考え、社会・消費者のニーズを満足させるために、マーケティングの四つのP（Product,Price,Promotion,Place）の適切な組み合わせを行っていく必要性があると結んだ。

出牛教授は本学在職43年5カ月。経営学部長を5期10年、98年からは学長を2期6年務めた。専門分野であるマーケティングの研究と共に、初代国際交流センター長、他大学に先駆けて「HEIB講座」誕生に尽力するなど常にパイオニア的存在として活躍。司会を務めた出牛ゼミ卒業生の田口冬樹経営学部教授は、「時代の変化に敏感であれ。オリジナリティーをもて。決してあきらめるな」と、学問に取り組む姿勢を常々ゼミ生に説いていたエピソードを披露した。

当日は、学生、卒業生、教職員、名誉教授ら関係者で教室が埋められ、出牛教授に温かい拍手を送っていた。

【ニュース専修2004年10月号2面】

Copyright(C) 2007 SENSHU UNIVERSITY All Rights Reserved.

たまフォーラム スタート

住民・企業・大学・行政が連携

平尾 光司教授

平尾光司教授、徳田賢二教授（以上経済学部）、関根孝教授（商学部）らがメンバーとなり「たま市民生活・文化産業おこしフォーラム」（通称・たまフォーラム）が結成され、活動を開始している。同フォーラムは、サイエンスシティ川崎戦略会議の提言を受け、川崎市西北部にある大学や専門学校、企業、NPOが連携し、新たな都市型サービス産業の誘致や創造、人材育成、まちの魅力づくりなどを検討する組織。大学共同講座や起業家塾を開催、最終的には中小企業支援ワンストップ拠点の形成を目指す。活動によって形成されるネットワークを重視し、「人材都市」の創造をも目標としている。
キックオフシンポジウムとして、島田晴雄慶應義塾大学教授の基調講演と「語ろう、たまを元気にする方法」をテーマにパネルディスカッションが9月2日、多摩市民館で行われた。司会はフォーラムの座長である平尾教授が務め、阿部孝夫川崎市長が参加した懇親会でも活発な議論が続いた。大学院生の加藤ひかりさん（小口登良指導教授）、王テイさん（大橋英夫指導教授）が当日の事務局を担当した。
（http://www.ksp.jp/tamasp/forum/index.htm）

「福祉の心を伝える」

宇都栄子教授が講演

▲講演する宇都教授

このシンポに先だち、参加6大学の教員を講師に、市民講座が8月26日、多摩市民館で開かれ、本学からは宇都榮子文学部教授が「福祉の心を伝える――福祉文化財保存活用をすすめるボランティア」をテーマに講演した。
宇都教授は、「岡山孤児院」の創設者として延べ3000人の子供を救済し、日本の社会福祉事業史に大きな足跡を残した石井十次（1865～1914）と、日本最初の知的障害者のための社会福祉施設「滝乃川学園」（東京・国立市）を創立した知的障害児教育の先駆者である石井亮一（1867～1937）の業績を紹介した。社会福祉に捧げた2人の精神を、身内、子孫、賛同者が連綿と継承し、現在でも息づいている姿を報告。「福祉の心を伝える活動に、女性やシニアをはじめとする一般市民の方々も関わってほしい」と結んだ。

【ニュース専修2004年10月号2面】

Copyright(C) 2007 SENSHU UNIVERSITY All Rights Reserved.

「日本文学・文学の内と外」

小林恭二・仲川恭司両教授らが講演

エクステンションセンター公開講座 文学の森

エクステンションセンター公開講座「文学の森～日本文学・文学の内と外～」が9月25日と10月9日、生田キャンパスで延べ400人の受講者を集め開講された。1回目の講師は、作家であり俳句研究でも知られる小林恭二教授と海外へ書芸術普及に努めている書家の仲川恭司教授。日本の文学や伝統文化が海外でどのように興味が持たれ育っているのか、その可能性を探った。
小林教授は「海外における俳句の浸透度―パリとクアラルンプールの状況―」と題して講演。パリの女子高生に俳句を授業した体験とクアラルンプールで俳句のワークショップに参加した経験を語った。現地の人々の素直な感性、詩情豊かな作品に触れ、「外国語でのHaikuはシラブル（音節）や季語の問題などがあると心配したが、杞憂であった。日本発の『俳味』は世界共通である」と締めくくった。仲川教授の演題は「世界の中の日本文化としての書」。海外での書の紹介を通じ、人々の日本人とは違う反応や書のとらえ方を、エピソードを交えながらユーモラスに披露した。

【ニュース専修2004年10月号2面】

Copyright(C) 2007 SENSHU UNIVERSITY All Rights Reserved.

本学から9人（現役1人）合格

司法試験第２次試験論文式

司法試験の第2次試験論文式試験の合格者が１０月８日、法務省から発表され、本学からは現役 1人を含む過去最高の９人が合格した。１０月末の口述試験を経て、１１月１０日に最終合格者が発表になる。

【ニュース専修2004年10月号2面】

Copyright(C) 2007 SENSHU UNIVERSITY All Rights Reserved.

地方自治体との提携講座

佐渡・鶴岡・北上・土庄などで

今年も各地の地方自治体主催の公開講座に本学の教員が出向き、講演している。

【文化講演の集い】（佐渡島開発総合センター）
7月30日、昨年に続いて新井勝紘文学部教授が「佐渡の近代を再考する～歴史の逆転の試み」をテーマに講演。自由民権運動がどのように広まっていったのか、日本の近代史の再考を試みた。（参加者67人）。

【鶴岡市民大学講座】（鶴岡市中央公民館）
今年度のテーマ「地域」第2講として、8月7日、石崎徹経営学部助教授が「地域を活性化するブランドづくり～地域の魅力をいかに発信させるか～」と題し、地域や街づくりに焦点をあて、地域の価値発信などについて講演した。（同22人）。

【北上市民大学】（北上市生涯学習センター）
8月19日、宮森孝史経済学部教授が「人の心がわかる心―心の世界をのぞいてみよう―」をテーマに心理学とは何か、心がわかるとはどういうことかなどを解説。悩むことで自分の心が見えてくると締めくくった。（同73人）

【土庄町生涯学習大学】（土庄町豊島公民館）
9月18日、泉留維経済学部講師が「離島である豊島の将来～一次産業を中心に発展するには～」と題し、豊島の現状と問題点を洗い出し、信頼関係を築いて、自分たちの力で問題を解決する力を身につけることが大切であるとまとめた（同42人）。

この他、本学OBでメキシコ五輪レスリング・フリー63㌔級金メダリストの金子正明さんが、8月21日、横須賀市市民大学夏季特別公開講座で「スポーツと人間開発」と題した講演を行った。

【ニュース専修2004年10月号2面】

Copyright(C) 2007 SENSHU UNIVERSITY All Rights Reserved.